

Title	解題にかえて : Dr.Jの思い出
Author(s)	中川, 雅道
Citation	臨床哲学. 2013, 14(2), p. 75-75
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24716
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

解題にかえて—— Dr. Jの想い出

本稿の原文はハワイ P4C の生みの親である Dr. トーマス・ジャクソン（通称 Dr. J）が執筆したもので、ハワイ P4C のウェブサイト (<http://www.p4chawaii.org>) の RESOURCES というコーナーで読むことができます。このコーナーには他にも教材集や、論文が掲載されていて、非常に参考になります。仕事の傍ら、ぼちぼちと訳していければなど夢見ています。

2012年の夏、P4Cを学ぶためにハワイのいくつかの学校を訪れました。たくさんの魅力的な先生たち、生徒たちに出会い、勤務校で頼りなくP4Cを始めてみた自分にとっては何よりも励みになりました。その中でも、予めから噂に聞いてはいたのですが、P4Cの理念を体現しているようなDr. Jから消えることのない影響を受けました。私にとって自分の拙い英語を熱心に聞いてくれる見事な聴き手に出会ったのは初めての経験でしたし、ハワイの子供たちが同じような経験をしているとしたら、なるほどそれ以上のすばらしい経験など中々ないだろうと感心してしまいました。聴くことから全てが始まるというスピリットを感じるとともに、いかにP4Cが生き方の問題なのかということを深く納得しました。ワイキキ小学校では学校全体でP4Cに取り組んでいます。どのクラスにもコミュニティボールが並び、職員会議がP4Cスタイルでなされる。この凄さを教員なら感じることができるでしょうか。通りすぎる小学生たちが「J, J!」となついてくる、校長がこの学校の成功はDr. Jのおかげだと公言する。ハワイ大学の教員という立場にありつつ、学校を訪れ、教員とともに探求の共同体を育ててきた30年という年月が生み出した、まさに奇跡でした。

「やさしい哲学探究」は、そのDr. トーマス・ジャクソンがP4Cの目的、方法、工夫について丁寧にまとめた論文です。原題はGently Socratic Inquiryであり「ソクラテス的」という言葉通り、ソクラテス像の描き直しからスタートします。訳語の単純さを優先して「哲学」という言葉を採用していますが、ソクラティックという言葉を頭の片隅において読んでいただければ幸いです。日本ではまだ、学校の先生が気軽に手にとれるような、P4Cの全体像をつかむ読み物がありません。拙訳がその一助になればと願っています。

最後に、突然の訪問にも関わらず私を探求の共同体に含み込んで頂いた先生たち、そして気軽に翻訳を許可して頂いたDr. Jに感謝したいと思います。

(中川雅道)